


【第3号様式】おきなわSDGs認証制度 主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）

1. 団体情報

企業・団体名	HelloWorld株式会社
--------	----------------

2. 申請内容

（1）2030年のあるべき姿（ビジョン） ※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）	
* SDGsの目標である2030年までに、「（2）今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 （貴社/団体が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社/団体が考える課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など）	2030年のあるべき姿の実現へ向けて取り組むゴール * SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。
すべての子どもたちに質の高い教育と国際交流の機会を平等に提供することで、多様性を尊重し、平和に貢献できる次世代を育成する社会の実現を目指す。AI技術やEdTechの活用により、地域・所得差による教育格差を是正し、すべての子どもがグローバルに活躍する素地を養える社会づくりに取り組む。 具体的には、AIによる英会話練習と海外の同世代との交流を提供するEdTechアプリ「WorldClassroom」を公教育に重点的に導入し、教育格差の是正と国際理解を促進する。また、国内ホームステイ型国際交流である「まちなか留学」を提供し、国際理解や英語活用の実践機会を拡充する。生活困窮世帯向けには、「まちなか留学基金」を活用し無償提供する。2030年までに全国の児童生徒の50%に提供することで、前述の社会づくりを実現していくことを目標としている。	

（2）今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（経済・社会・環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組		おきなわ SDGsアクションプランとの関係性				関連するステークホルダー	補足事項・留意点等	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）		
	概要	分類 * 任意の箇所は、プルダウンから分類を選択ください。	優先課題	SDGs推進の目標		関連するSDGsターゲット	* 連携・協力するステークホルダーがいる場合に記入する。	* 補足事項等があれば記入する。	管理する指標	現状値 （2025年3月）	目標値 （2027年3月）
1	まちなかENGLISH QUEST（外国人とチームを組んでAll Englishでミッションをクリアしていく探究フィールドワーク。主に修学旅行生向けに、アメリカンレジェンズや首里城で行っている）の参加者数を増やし、観光×教育で沖縄観光の価値を高める。	経済	必須	優先課題④	④-2	県内企業の稼ぐ力を強化し、観光との連携・相乗効果なども活用することで、域内経済循環の拡大や県民所得の向上を実現する。	4.1 4.5 4.7 8.9	沖縄観光コンベンションビューロー 旅行代理店各社 教育委員会	沖縄県内でのまちなかENGLISH QUEST年間参加者数	6,000名	9,000名
2	①英語学習・国際交流EdTechツール「WorldClassroom」の導入拡大 ②日本在住の外国人宅へのホームステイマッチング「まちなか留学」の提供拡大 ①・②を通じて、公教育で国際交流の機会を提供する。	社会	必須	優先課題③	③-2	時代に対応し、生きる力を育む、多様な学びの環境の形成を実現する。	4.1 4.5 4.7	那覇市 豊見城市教育委員会 与那原町教育委員会 など	①WorldClassroomの導入率 （全国・県内） ②まちなか留学の提供人数 （全国・県内）	①2.5%・39% ②6,100名・4,400名	①30%・60% ②8,000名・6,000名
3	国際交流しながら、海や天然資源・生物多様性に関するワークショップやビーチクリーンを行うプログラムを提供する。	環境	必須	優先課題⑦	⑦-1	美しく豊かな自然が保全され、生物多様性の維持を実現する。	14.5	沖縄沿海保全団体 Churamura	ワークショップ年間提供人数	80名	200名
上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済・社会・環境・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください）											
4	日本在住の外国人宅へのホームステイマッチング「まちなか留学」を生活困窮世帯の子どもたちへ無償提供する。	社会	任意	優先課題②	②-6	生活困窮世帯の子どもや世帯を支援する官民の枠組みが充実し、子ども達が生き生きと活動できる環境の形成を実現する。	4.1 4.5 4.7	Know The Worldプロジェクト まちなか留学基金	まちなか留学無償提供延べ人数	500名	1,500名
5			任意								

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細	
* 各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。	
取組 1	取組の詳細
	まちなかENGLISH QUEST（外国人とチームを組んでAll Englishでミッションをクリアしていく探究フィールドワーク。主に修学旅行生向けに、アメリカンレジャや首里城で行っている）の参加者数を増やし、観光×教育で沖縄観光の価値を高める。 既存の場所・文化財等をそのままの形でプログラムに取り入れ、ミッションをクリアしながら参加者に興味を持たせることができ、徒歩で移動するプログラムのため環境への負荷もからずに実施することができるため、持続可能な発展につながる。
	取組において、現時点で実施／決定していること
	2024年度から、沖縄観光コンベンションビューローの修学旅行需要分散・時期平準化促進事業に登録し、事業を活用しながら周知広報をした。2025年度の参加者は6,200名を見込んでいる。
	取組において、今後予定していること
取組 2	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法
	2021年度からサービス提供を開始し、2021年度172名→2022年度2,500名→2023年度4,500名→2024年度4,400名へ提供している。人間的な制約があり受入に限界があったが、2025年度にオペレーションを根本から見直し、システム化することで受入規模を拡大する（例：AI採点の導入、メッセージツールの一元化）。
	取組を推進する体制
	沖縄観光コンベンションビューロー、各旅行代理店、教育委員会等と協力・連携して、学校側のニーズも汲み価値のあるサービスを提供する。
	取組において、現時点で実施／決定していること
取組 3	取組の詳細
	①WorldClassroomは、ウェブブラウザで利用できる英語学習・国際交流EdTechツールである。WorldClassroomを公教育に重点的に提供することで、地域や所得の格差に関係なく、すべての子どもたちにAI英会話練習や海外の同世代との交流を通じた実践的な英語教育の機会をあまねく平等公平に提供している。 ②まちなか留学は、日本在住の外国人宅への主に週末等を利用した短期ホームステイをマッチングするサービスである。裕福な家庭や成績優秀者に限られると思われている留学という経験を、住んでいる地域で安価に実現することができる。
	取組において、現時点で実施／決定していること
	①WorldClassroomは2024年3月時点で、沖縄県内公立高校は9校15%、公立中学校では75校54.7%が導入している。 ②まちなか留学は、2023年度から内閣府の補助事業に採択され、2025年度は沖縄県内の学校に在籍している小学3年生～高校3年生約5,500名は約40%の補助を受けて参加することができる。
	取組において、今後予定していること
	①WorldClassroomは2025年4月時点ですでに全国78自治体12校で新規導入が決定している。 ②まちなか留学の今年度参加者は5,500名になる見込みである。
取組 4	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法
	①WorldClassroomの導入は、2022年33校→2023年80校→2024年256校と指数関数的に伸びると予想されるため、達成できる見込みである。 ②まちなか留学は、2023年5,700名→2024年6,100名と微増だがニーズはあり、着実に延ばしているため達成できる見込みである。
	取組を推進する体制
	①学校・教育委員会と連携し、現場のニーズとWorldClassroomの機能のすり合わせ・アップデートをしていく。導入・活用にハードルを感じる先生への個別フォローやセミナーをWorldClassroom CSチームが行う。 ②学校・教育委員会と連携し、学校毎の独自日程での実施、離島在住者も参加しやすいよう空港送迎対応日程の設定もしている。
	取組において、現時点で実施／決定していること
取組 5	取組の詳細
	オキナワインターナショナルスクールのサマースクールの中で委託を受けており、授業の一環として小学生向けワークショップを提供している。
	取組において、現時点で実施／決定していること
	今年度のサマースクールでも沖縄の自然や環境保全（例：海・浜辺の生き物、生態系やそこに潜む危険、ゴミの影響等）について学ぶワークショップを提供する。
	取組において、今後予定していること
取組 6	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法
	ワークショップ等を通して、環境意識を高める。 また、小学生向けに加えて中高生向けのワークショップ提供や、修学旅行のプログラムとしての提供も行いたく、ワーク内容の検討・旅行代理店へのヒアリング等を進める。
	取組を推進する体制
	県外からの沖縄修学旅行プログラムのニーズとしてSDGsに関する体験のニーズが高まっているので、修学旅行向けプログラムとして展開していくことで達成できる見込みである。
	取組において、現時点で実施／決定していること
取組 7	取組の詳細
	まちなか留学は、日本在住の外国人宅への主に週末等を利用した短期ホームステイをマッチングする有償サービスだが、「まちなか留学基金」により生活困窮世帯の子どもたちには無償で提供することで、所得に関係なく、質の高い教育を提供している。
	取組において、現時点で実施／決定していること
	沖縄県出身のラッパーAwichとの共同プロジェクトKnow the Worldプロジェクトを2024年より実施しており、2025年度も生活困窮世帯の生徒・学生を対象に100名に無償でまちなか留学を提供し、8月にはアメリカアトラクタへの短期留学を3名に無償で提供する。
	取組において、今後予定していること
取組 8	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法
	2025年度、まちなか留学基金を活用して約100名にまちなか留学を無償で提供する予定である。 また、今後はふるさと納税を活用したいと考えている。2025年度、沖縄県の社会課題解決型クラウドファンディング活用事業に採択されたので、2026年度はふるさと納税で集まった寄付をまちなか留学に活用したい。企業版・個人向けそれぞれのサイトに掲載予定である。
	取組を推進する体制
	2020年の創業時よりまちなか留学基金を設立し、2023年4月に第1期まちなか留学基金によるまちなか留学の無償提供を行い、延べ人数は2023年100名→2024年300名→2025年3月時点で500名となっている。まちなか留学基金による無償提供だけでなく、Know The Worldプロジェクトのような企業連携企画の立ち上げにより提供人数を拡大できる見込である。
	取組において、現時点で実施／決定していること
取組 9	取組の詳細
	Know the Worldプロジェクトのような企業連携企画の企画・実施や、まちなか留学基金への寄付募集をする。
	取組において、今後予定していること